

有機農業技術のつぼ

【NO. 1 1】

作物名	水稲
対応技術の項目	施肥技術
	土壌・施肥改善法
	化学肥料の代替技術

《情報収集先の経営概要等》

新篠津村 熊崎 隆久 経験年数13年（うち特裁年数2年）
 経営耕地面積 32ha
 水稲 17ha（うち特栽面積 1ha）
 大豆 4ha
 労働力 家族3人 雇用3人

問題点

成苗ポット育苗において化学肥料不使用の育苗方法が必要となった

- 化学肥料を使用しないと葉色が薄くなる（健苗の育成が困難）

対応

培土・緑肥・置き床施肥の工夫

つぼ

- 培土はホクサン育苗軽良培土覆土用を使用
- くず大豆を緑肥として前年6月20日頃には種(320g/m²)し、7月中旬に鋤込み
- 置き床施肥は発酵鶏糞ペレットを使用（333g/m²）



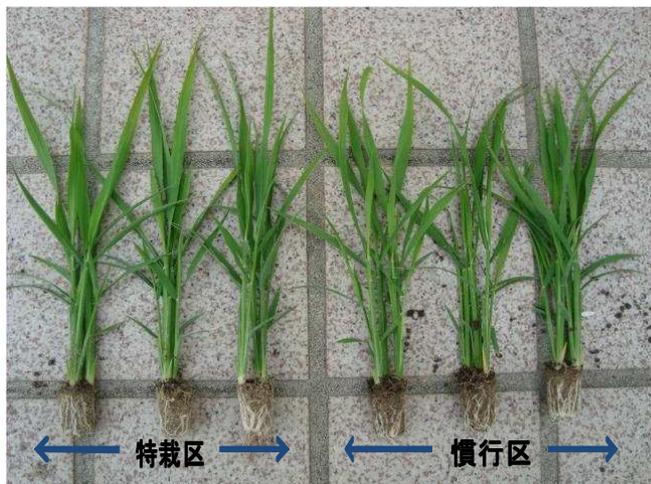
※ 対応技術活用上の注意点

- ・ 緑肥大豆による育苗ハウスの地力増強に努めている
- ・ ハウスはローテーションを行い、りん酸蓄積を回避する
- ・ 本事例は特裁であるが、育苗期間中は有機的管理を行っている



成 果

慣行と葉色の差がほとんどなくなった



5/22	特裁	慣行
草丈	16.0	15.0
葉数	4.4	4.5
分けつ	1.5	1.6
第1鞘高	1.9	1.8
乾物重 g/100本	5.8	5.2
1ホット個体 数	2.6	2.9



ハウス内の緑肥大豆